

## 第1回生駒市総合計画審議会（第一部会）会議録

開催日時 令和3年6月21日（月） 13:30～16:40

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員）中川部会長、森委員、森岡委員、陽山委員

（事務局）増田市長公室長、岡村企画政策課長、片山企画政策課計画係長、竹田企画政策課係員

（担当課）佐々木予防課長、塩濱予防課課長補佐、池田警防課長、南警防課課長補佐、橘警防課課長補佐、細谷防災安全課長、甫田防災安全課課長補佐、高橋消費生活センター所長、向田人権施策課長、塚崎人権施策課人権施策係長、入井男女共同参画プラザ所長

欠席者 なし

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】（開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

【中川部会長】 先日の全体会で話があったように、当部会は、それぞれの担当の分野において、各分野で掲げる5年後のまちの実現に向けて、審議していきたいと思っている。その実現度合いをはかる指標が適切ではないと思う場合は、ご指摘いただければ。審議の中で、担当課に確認等の必要がある場合は、発言を求めているでもいい。それでは担当課出席の中の都合で順番が前後するが、最初はNo. 142の消防から始めます。

No. 142 消防

【森委員】 火災警報器の設置による効果は出ているのか。小火で済んだなど被害が

少なかったら効果が出ていることになるが。

【予防課】 書き方を損害別に分けるなどした方がいいか。

【森委員】 取組効果を含めて啓発の意味を込めて書いたらどうかと思った。

【予防課】 検討する。

【森岡委員】 報道を見ていると全国的に火事の被害が増えている気がする。増えているとすれば力を入れていく必要がある。

【予防課】 全国的な死亡火災のデータはすぐには分からないが、生駒市は予防のために警報器設置の啓発をしている。

【中川部会長】 「警防・救助」分野の指標は、5年後のまちを表しているのか。初めからデータは0である。

【事務局】 この指標だと5年後のまちをすべて測ることはできない。進行管理する上で補助指標を設定することもできるので、他の指標があればいい。

【中川部会長】 消防隊到着後の年間延焼棟数がずっと0なのはいいことだが、指標としては、5年後のまちにある「相互連携」とはマッチしていないので、他の指標を提案してもらいたい。

【警防課】 検討する。

【中川部会長】 「予防」分野の指標の目標値は、なぜH29年度の値よりも多い数値になっているのか。

【予防課】 本来は0を目指すのがいいが、なかなか0件は難しい。目標値は策定当時の平均値で設定している。建物火災にも規模があり、小火で済んでよかった、というのが望ましい。

【森委員】 目標値として13件は多い気がする。

【予防課】 火災警報器の設置はH22年から義務化され、その後少しずつ火災は減ってきている。現状設置率は70%なので、さらに多くなると0にはならないが、減ると思う。警報器も多種多様化してきており、性能も良くなっている。

【中川部会長】 目標値が13のままだと変化を求めていないように見えてしまう。啓発件数をアウトプットの補助指標として設定した方がいいかもしれない。アクションが指標にダイレクトにつながるか疑問がある。

【予防課】 検討したい。

【中川部会長】 「救急」分野の指標も補助指標を設定した方がいいのではないかと。

【森委員】 同じような人口規模の自治体と比べて、火災の発生件数はどうなのか。

【予防課】 人口が似たような市と比較はできるので調べたい。

【中川部会長】 類似団体との比較でもいいと思う。絶対値だと市民にとっても分かりにくいので、相対値で出すのも知恵だと思う。

【森岡委員】 長い目でみると、コロナ禍という特徴的な環境下での取組がどうだったのか、というのを残しておくことも大切。市役所全体で共有できるので留意してもらいたい。

【中川部会長】 評価は担当課の自己評価のままとする。

## No. 151 生活安全

【森委員】 高校生等への消費者教育は教育委員会の話だと思っている。親の同意がなくても契約できる現状なので、公教育として実施すべきだと思う。中学校と連携して進める必要があり、消費者をつくることと教育を行うことはセットで考えて、依頼がきたらやるのではなく、連携してもらいたい。

【消費生活センター】 今年中学校から話もあり、県の専門チームが授業をしている。

【森委員】 交通啓発動画は既につくったのに、また違う動画をつくるということなのか。

【防災安全課】 警察と合同でつくったので、著作権が警察本部にある。

【森委員】 同じものをつくるのはもったいない。

【防災安全課】 今回は教授に無償で協力してもらったものをホームページにアップした。今後は、高齢者向け、小学校低学年向けなど年齢層に分けてつくっていききたい。

【森岡委員】 「交通安全」分野の5年後のまちは誰を対象としているのか。取組内容は子どもや幼児向けばかりである。高校生に対しては取り組んでいない。マナー違反をしているのは大人であるが、対策がとられていない。目標に掲げていることと取組がずれている気がする。

【防災安全課】 県内で最も自転車通学が多い奈良北高校では自転車マナーについて取組を進めている。

【森委員】 交通弱者の保護ばかりやってもだめで、加害者になる人を放置して

いていいのかという話。

【防災安全課】 運転手のマナー等の啓発は今後していこうと考えている。

【中川部会長】 子ども・高齢者だけが対象になっているのが釈然としない。大人を対象とした取組が必要であり、指標も補助指標を出してもらいたい。

【陽山委員】 こども110番の家の取組は以前参加して旗を出していたが、ぼろぼろになって捨ててしまった。市からのアプローチは特にはないが、110番の家は増えているのか。

【防災安全課】 子どもが小学1年生になったタイミングで、回覧板でお願いしているのと、広報紙にも掲載している。アンケートによると利用件数は11件であり、抑止効果はあると思っている。

【中川部会長】 指標を子どもを対象とした犯罪の件数にしてはどうか。そうすれば取組との因果関係もわかる。刑法犯罪の認知件数は最終アウトカムであるので、間にアウトプット指標も入れてはどうか。

【防災安全課】 こども110番の家の取組に目標値は立てておらず、減らさないように取り組んでいる。

【陽山委員】 以前旗を出していたがやらなくなった家に対するアプローチは。

【森岡委員】 抑止効果よりも駆け込む用だと思うが、知らない人の家に子どもは入らないのでは。やっていることはいいが、単に旗を立てるだけでは足りず、安心して逃げ込めるような取組が必要なのではないか。

【陽山委員】 旗を立てることで家に人がいる、という効果もあると思う。

【中川部会長】 家側に対して何か研修は実施しているのか。

【防災安全課】 マニュアルは分かりやすくして配布しているが、研修はしていない。

【中川部会長】 自身のまちではスーパーやコンビニが旗を立てている。根本はコミュニケーションにあると思うので研修が必要ではないか。

【森岡委員】 知らない大人には口をきいてはいけないと言いながら、旗だけでは意味がない。

【中川部会長】 コンビニなどは飛び込みやすいし、接客業の店舗に立ててもらえばいいのでは。人口あたり旗を立てている家の数も指標になると思った。

【森委員】 「交通安全」分野の評価は、加害者側へのアプローチも進めてもらいたいという期待をこめてC1が妥当だと思う。

【中川部会長】 より良い施策の着眼点を見つけるために申している。高校生や大人へのアプローチを検討してもらいたい。また、中間アウトカムも考えてもらいたい。

No. 141 防災

【森委員】 防災関連の表示をつくることは優先度が低いのか。

【防災安全課】 もともとあるものを更新して交換していつている。一度に実施したいが他の事業との兼ね合いもある。

【陽山委員】 私有地での災害対策の話だが、警告はできるが罰則はできないと聞いたことがある。誰か怪我をしてしまったらどうなるのか。

【防災安全課】 道路にかかってくる声掛けはできるが、対策は個人になってしまう。

【陽山委員】 大雨のあと崩れかかっている箇所があったので市役所に電話した。経過報告を依頼したが連絡はなかった。大雨のあとは通行車にかかるくらい竹藪が垂れているので、みてもらいたい。

【防災安全課】 通行に支障があれば道路管理者の権限で対応はできる。パトロールもしている。

【森岡委員】 「災害対策」分野は、5年後のまちの実現のためにどうしているのか。防災マップは色を塗っているだけで一般の人には分からない。台風がきたらすぐに避難所に行くが、本当に危ないところに住んでいるということが住民に知らされていない。危ないところは決まっているので、平常時から何をしているのかが聞きたい。

【防災安全課】 土砂災害のハザードマップは全戸配布している。土砂災害警戒区域の中に特別警戒区域（レッドゾーン）がある。昨年はなかなか地域に出向いての啓発ができなかったが、どういう地域かをふまえてマップを示して講座をしている。今後も地域特性にあわせた啓発をする。

【陽山委員】 ファクスでの緊急情報発信の取組は、必要な人に情報が届いているのか。

【防災安全課】 障がい福祉課から声を掛けているし、団体にも知らせている。

【森委員】 普通は、国土強靱化地域計画の下に総合計画がくるのだが、なぜ生駒市は逆になっているのか。問題ないのか。

【防災安全課】 市で判断してもいいことは確認している。

【中川部会長】 学校区単位での防災訓練の実施回数だが、12校区のうち5校区を維持していても防災は難しい。働き盛り世代の参加状況は。

【防災安全課】 訓練などは土日・夜間など集まりやすい日程で実施しているが、難しい。小さい子どもがいる家庭向けにピンポイントで講座を開催している。

【森岡委員】 毎年最大5校区で、その5校区は同じところ。それをグラフに示して何の意味があるのか。目標数値が5ではだめだと思う。

【防災安全課】 同地区での継続は必要だと思っている。増やすことは難しい実情がある。

【中川部会長】 防災訓練はコミュニティの基本であり、この現状は、自治会頼みになっていることを表している。各部局が縦割りで、全体的にコミュニティを盛り上げていくようにはなっていない。だから5件で精一杯になる。全体調整をどこかがしなければならない。

【森岡委員】 教育委員会は、地域ぐるみで中学校と地域と一緒に防災をやっていこうと言っているのに目標値がずっと5というのはおかしい。

【森委員】 難しい理由はどこにあるのか。

【防災安全課】 防災の役員が毎年交代する地域での実施は難しい。

【森委員】 学校が音頭をとってやればいいのか。学校がプラットフォームになっていることも多いので、教育委員会に働きかければよい。

【中川部会長】 コミュニティ政策が縦割りのままで成功していない。防災だけでなく、防犯、地域医療、教育、消防もみんなで協力する形になっていない。訓練は、通常夏と冬の年2回実施するので、すべての校区で実施となれば24回になる。5校区だけではよくない。

【森岡委員】 教育委員会が学校教育として地域とつながっていこうと言っている。担当課が動かないといくら学校がやる気でも進まない。

【中川部会長】 市民自治協議会をつくることができるようになったのは、もともと防災を地域ぐるみでやっていこうという狙いがあった。どこが音頭をとるのかというと、防災と消防だと思う。

【森岡委員】 防災訓練に若い世代がこない。学校がやると子どもとその親が参加する。だから学校と一緒にやることに意味がある。文科省もそう言っている。

【中川部会長】 「自主防災」分野の指標の分母を24にして比率にしては。また、「防災体制」分野も全職員を分母に、参加職員を分子にして100%に近づける

ことが目標ではないか。重機が通れる橋の数や給水車から給水できる訓練を受けている人の数など、指標は色々と考えられる。

【森委員】 「自主防災」分野はC2評価が妥当ではないか。

【中川部会長】 スタートラインを下げるということでC2評価とする。

#### No. 311 人権・多文化共生

【森委員】 パネル展は近鉄に働きかければ駅構内でもできるのでは。

【人権施策課】 今回はA3パネルが20枚と大型の展示であり、人の密集を避ける観点から構内展示は難しいと判断したが、今後協力願えそうなものは、検討していきたいと考えている。

【森岡委員】 ベルテラスを活用しての展示はできないのか。

【人権施策課】 ベルテラスの広場部分は商工会を通じて利用申請するしくみだが、展示での長期間申請は難しく、今回は公共施設内での展示とした。

【森岡委員】 ベルテラスをもう少し活用すればいいのと思う。市の施策の宣伝にもなると思うが使いにくそうである。

【人権施策課】 例年は市民集会での啓発を実施していたが、今回はコロナの感染状況の推移判断が難しく、人の密集を避けるためパネル展示やホームページの特設サイトでの啓発活動と工夫している。

【陽山委員】 課で作成しているリーフレットについても、自治会の回覧を活用して広く周知することを検討してはどうか。

【人権施策課】 自治会回覧となると、回覧分だけで約4,400部必要となる。令和2年度に作成した性的少数者に関するリーフレットについては、インタビューに協力頂いた当事者の方の、思春期に悩み始める世代に届けたいという思いを聞き、その世代を対象として重点配布を進めている。出前授業等を利用して啓発効果を踏まえた配布を実施している。

【中川部会長】 懇談会の開催地区数の総数は。

【人権施策課】 当該年度で懇談会を実施した自治会の累計数としている。当該年度で同一自治会が複数回開催しても、1つとしてカウントしている。懇談会は市内を3つのブロックに分けて、各自治会の協力を得ながら万遍なく開催されるよう声を掛けているが、昨年度はコロナ禍で開催されなかった。

【森委員】 課名を「人権・多文化共生課」にしてはどうか。

【人権施策課】 国際化に関わる所管は変遷してきた。現在は、「生駒市人権施策に関する基本計画」に基づき、多岐にわたる人権課題を所管する。

【中川部会長】 企業へのアプローチは。

【人権施策課】 商工会と連携した講座を開催した。性的少数者に関するリーフレットでは企業担当者にインタビューした内容も掲載した。

【森委員】 同性カップルの認証制度は。

【人権施策課】 この4月からパートナーシップ宣誓制度を導入し、5月に1組宣誓があった。広報紙の4月号で特集も組んで周知を図った。

【中川部会長】 懇談会の開催地区数の指標について、分母を総自治会数の127にし、開催された自治会数を分子として、比率にするのもいいと思う。不登校になった人たちへの取組は。

【人権施策課】 生涯学習課所管の子ども・若者支援ネットワークが、不登校・ニート・ひきこもりなど様々な困難を抱える子ども・若者の支援を行っている。

【森岡委員】 令和元年度の検証シートと見比べてみたが、実施されている取組が大きく変わっている。

【事務局】 継続すべき事項は粛々と取り組んでいる。検証シートには当該年度に重点的に実施した事項をピックアップして記載するので、記載される内容が毎年変わることもある。ご理解頂きたい。

【中川部会長】 人権は極めて専門性が高く奥深い。大変な中よくやっていると思う。そんな中、一般論に流れないようにしてもらいたい。総括する権限を持っていると思うので頑張ってもらいたい。HIV、ハンセン病、刑務所出所者の人権など法律がないことも多い。法律がないからやらないのではなく、啓発してもらいたい。講演会参加者数は人口比で考えてもらいたい。評価は自己評価のままとする。

## No. 312 男女共同参画

【陽山委員】 男性の育休は長期でも取得できるのか。

【男女共同参画プラザ】 取得できる。

【森委員】 女性管理職登用の効果について文章でもいいから論理づけが欲しい。女



性管理職の力は大きいと思う。

【男女共同参画プラザ】 今は数値での把握のみになっている。アンケートをとって見えてこないか考えたい。

【陽山委員】 男性の家事・育児参加についての女性の実感をアンケートでとってもらいたい。

【男女共同参画プラザ】 コロナ禍で男性の家事・育児参加は増えたと思うが、調査で実感をきいてみたい。

【森岡委員】 割合が増えたとかではなく、社会の理解が進まないといけない。女性が活躍できるような取組が見えにくい。比率で選んでいてはおかしい。

【森委員】 これまで、女性が管理職になりたいのになれなかったということなのか。

【男女共同参画プラザ】 女性の意識の問題もあると思う。管理職を選ばないこともだめではない。色んな選択肢があったらいい。

【森委員】 選択肢を与えて、管理職が増えてきているということか。

【事務局】 昔と職員の男女比も違う。管理職の女性登用の数字は意識しているが、実際は能力で選んでいる。子どもが小さいからという理由で試験を受けない人がいることも事実。昔と違って今は男性の保健師がいたり、女性の消防士がいたり実態として変わってきている。

【森委員】 アファーマティブアクションとしてやってもらいたくない。各部署で活躍してもらいたい。

【森岡委員】 イクボス、ワーク・ライフ・バランスをやっていれば男女共同参画は進むのか疑問に思う。女性の能力にスポットが当たるようになればいいと思う。能力開発の話がもっと出てきてもいい。

【男女共同参画プラザ】 男女とも色んな選択肢があってもいいということを提案している。

【中川部会長】 男女共同参画審議会では何を審議しているのか。

【男女共同参画プラザ】 女性委員の割合や事業の報告などを行っている。

【中川部会長】 総合計画の指標と同じ指標なのか。能力開発のための事業はあるのか。

【男女共同参画プラザ】 総合計画の指標は審議会でも報告している。能力開発事業としては、キャリア形成セミナーを2回開催した。

【中川部会長】 そのようなことをもう少し前面に出せばいい。また、特定事業主行動計画の指標もあるので、補助指標にすればいい。県と市との役割分担は。

【男女共同参画プラザ】 相談の入り口は市だが、案件に応じて、警察や県の相談センターにつながっている。

【中川部会長】 高学歴女性が無業化しているので、そこを助けにいてもらいたい。評価は自己評価のままとする。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —